

(別紙)

令和6年度

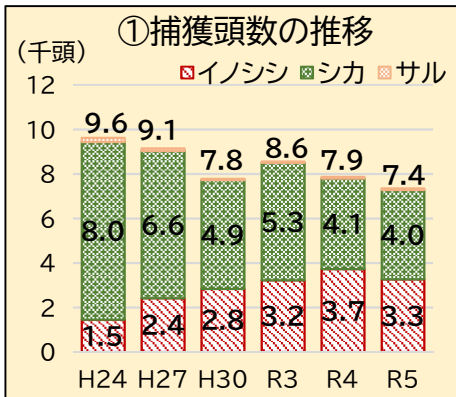
大分県鳥獣被害対策本部会議

現地対策本部の取組
(南部振興局、豊肥振興局、北部振興局)

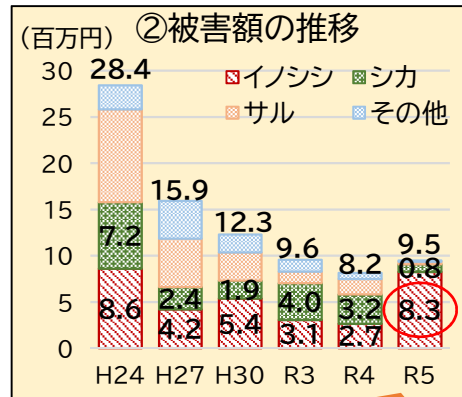
令和6年6月6日(木)

【被害実態に即した迅速な被害防止対策の実施(南部振興局)】

- (1)これまでの取組と成果(～R5年度)
- ・予防強化集落(6集落)を中心とした戦う集落づくり
 - ・集落環境整備、防護柵等の整備
 - ・猟友会等と連携した捕獲圧の維持・強化(R5:7,985頭)
 - 防護柵等の整備(H24年～:総延長177km)
 - 被害低減による強化集落の卒業(R5:5/6集落)



一定の捕獲数を確保



14年ぶりに被害増加
特にイノシシが急増!



《R5年度被害の特徴》

- ・前年度に比バイノシシの被害が大きく増加
- ・イノシシ被害の大半が水稻被害
- [箇所数]R4:59→R5:65箇所(前年比110%)
- [被害額]R4:2.7→R5:8.3百万円(前年比310%)
- 被害箇所の増以上に、1箇所あたりの被害が拡大
- 1箇所あたり10万円以下が3割を占める一方、300千円以上の被害も2割発生

《被害拡大の芽を早期に摘む!!》

- (2)R6年度の具体的な取組
- ①予防強化集落の新規設定(3集落)
 - 佐伯市堅田地区(石打)、木立地区(沖田・大野東)
 - ②「戦う集落づくり」に向けた意識醸成
 - アドバイザー研修の開催、既設防護柵・集落点検強化
 - ③被害発生地域での防護柵等の整備
 - R5:12,154m ⇒ R6:16,353m(前年+3割)
 - [R6内訳]
 - ワイヤメッシュ7,589m(国庫)
 - 電気柵等8,624m(県単:6,649m、市単:2,115m)
 - ④被害状況の迅速な把握・精度向上
 - 共済組合や農協との更なる連携
 - 農業委員(17名)・最適化推進員(27名)による巡視等

(1) 豊肥地域現地対応プロジェクトチームの設置及び体制について

1 目的

豊肥地域における鳥獣による農林水産物等の被害額については、令和3年度まで減少を続けてきたが、令和4年度は4年ぶりに増加に転じ、現場においても「対策はしているのに被害が減らない」といった声があがっていた。そこで、令和5年度から地域での農林水産物被害に対し、対策が的確かつ効果的に実施されるよう現地対応プロジェクトチーム（以下「PT」）を設置することとした。

そこでは、関係機関の職員が効果的に連携し、現場においてきめ細かに指導・助言ができるような体制の構築を目指し、関係機関における現状・課題について詳細に調査を行った上で、情報共有を図るとともに、被害軽減に向け、徹底した取組を検討することとした。

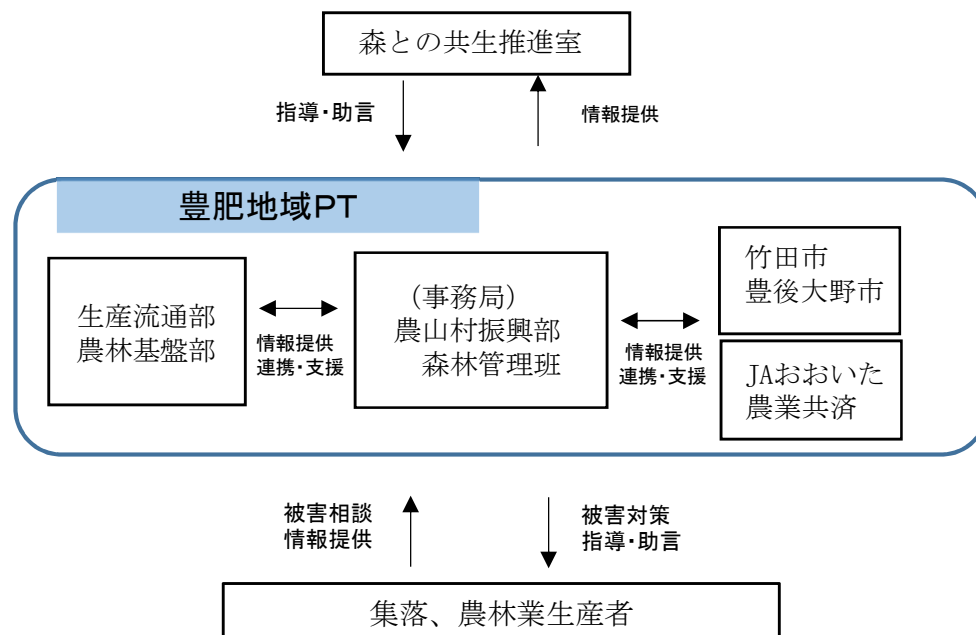
2 構成機関及び構成員

農林水産物の被害対策を重点に行うため以下の構成メンバーにより編成する。

組織名	班名等	備考
竹田市農政課	鳥獣対策担当	
豊後大野市農林整備課	鳥獣対策担当	
JAおおいた豊肥営農経済センター	鳥獣対策担当	
大分県農業共済組合南部支所	鳥獣対策担当	
豊肥振興局生産流通部	営農推進班	
豊肥振興局農林基盤部	農村整備担当班	
森との共生推進室	森林環境保護班 広域普及指導員	オブザーバー
豊肥振興局農山村振興部	部長	プロジェクトチームリーダー
	森林管理班	事務局

※PT会議開催時期：令和6年5月下旬、令和7年1月下旬実施予定

豊肥地域PTの連携イメージ



(2) 豊肥地域現地对応プロジェクトチームの取組について

R5年度の取組 管内の鳥獣被害対策関係者との連携・相互支援で予防対策を強化

①被害の状況、課題を把握するため電気柵の使用実態調査

- ・調査箇所：85箇所（竹田市48箇所、豊後大野市37箇所）
- ・調査期間：R5.4～R5.10 調査表に記入
- ・調査結果：電気柵設置・管理について指導が必要な圃場 58か所（68%）
雑草による漏電やバッテリー不足による電圧低下、夜間のみでの通電

②電気柵の適切な設置や管理の普及啓発

- ・電気柵チラシの増刷・配布
豊後大野市280枚、竹田市160枚
農濟南部支所40枚、JAおおいた豊肥営農経済センター40枚

③農作物被害対策（電気柵）の指導強化（PTメンバーへの緊急依頼）

- ・イノシシによる被害の対策を強化
- ・豊肥局生産流通部普及指導員、市と情報共有

④サル対策指導（豊後大野市と連携）

- ・既設柵（WM柵）をサル対策に向け機能強化（電気柵（おじろ用心棒）+亀甲網を追加設置）
対象作物：かんしょ、設置後、サル被害無し
- ・鳥獣被害予防アプリを活用したサル出没情報の収集システムの導入（中部振興局と連携）
無料アプリ「けものおと」、提供：（株）アイエスイー

⑤アライグマ対策

- ・特定外来生物、この数年捕獲数が増加 生息・被害発生情報収集（PT連携）

⑥集落（新規防護柵予定地区）、農業法人等に柵設置、維持管理指導

- ・交付金事業設置地区への説明会開催（豊後大野市、竹田市交付金事業担当者）
- ・農事組合法人等指導（生産流通部・市と連携）
R5.5.16 農事組合法人いの上え 補助事業（国庫・県単）説明
R5.6.20、6.23 竹田市 高源寺金網柵（農林基盤部事業）柵位置決め
R5.6.14、7.11 アグリプロデュース辻原農場 既設柵及び周辺の状況確認
R5.6.22、6.26、7.31 アグリハート笠松圃場 被害確認、対策指導
R5.9.26～28 かんしょ部会の堀取り講習会で鳥獣対策指導（生産流通部）
その他、予防強化集落等を対象に聞き取り、対策等を指導

電気柵現地調査票

番	相手		農作物	予防対策			被害発生状況				指導の必要
	当該農地	耕作者		対象獣	防護柵	加害獣	種類	発生回数	電圧	低下原因	
3	豊後大野市	個人・法人 会社、その他	水稲 その他	イノシシ その他	電気柵のみ 金網・ネット トタンとの併用	イノシシ その他	2段 3段	連続 夜間 昼間	1000V 連続 夜間 昼間	漏電・雑草、その他 バッテリー不足 接続不良	要
4	竹田市	個人・法人 会社、その他 (立ち会いなし)	水稲 その他	イノシシ その他	電気柵のみ 金網・ネット トタンとの併用	イノシシ その他	2段 3段	連続 夜間 昼間	V 連続 夜間 昼間	漏電・雑草、その他 バッテリー不足 接続不良	要



② 電気柵チラシ配布



北部振興局管内における獣肉利活用の取組

○獣肉利活用 ・獣肉処理量 R5:20t (R4:17t) 県全体の45%

・宇佐ジビエファクトリーが全国初となるジビエ研修所を開校 加工処理技術者の養成や見学会等を通じたジビエ消費拡大を推進

○宇佐ジビエファクトリー(宇佐市院内町)

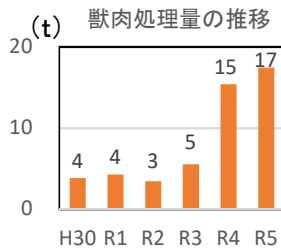
整備時期:平成29年度(県地域活力づくり総合補助金)

(事業費:65百万(補助額:30百万円))

年間処理頭数:1,632頭(R5)

年間獣肉処理量:17t(県全体の37%)

主な販路:県外レストランの系列店
や関西・関東の高級飲食店に供給



(特徴的な取組)

- ・宇佐市・豊後高田市の猟友会会員と連携し、捕獲されたイノシシ・シカを解体から食肉加工まで徹底した品質・衛生管理を行い、安全・安心なジビエ肉を供給
- ・国産ジビエ認証を取得(R元)
- ・令和5年度九州農政局ディスカバー農山漁村(むら)の宝選定地区

○日本ジビエアカデミー(同左)

整備時期:令和4年度(県地域活力づくり総合補助金)

(事業費:68百万円、補助額:30百万)

開校:令和5年6月

- ・狩猟から解体技術や活用方法を学べる研修施設
- ・県内外から多くの研修生を受入
申込者85人(うち受講者73人)(R5)
- ・このほか、県内の高校・大学生等を対象にした見学会等も行い、若者中心にジビエ普及に尽力している



・学校給食へのジビエ利用

豊後高田市の協力により
学校給食導入が決定(R5)

(ふるさと納税の返礼品に登録)

R5:130校 21,927食

(中津市、豊後高田市、宇佐市)

(県全体の45%)



B4-03【無添加】ジビエ(鹿・猪)生ソーセージ100g×各3P



C-34鹿ジャーキー&鹿フレーク【ペット用】各3袋九州大分県産ペットフードおやつ

・香々地青少年の家で開催する森フェス



<課題> ・獣肉の適切な管理、処理 ・販路開拓